

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2009年10月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079200335		
法人名	有限会社 てらだ苑		
事業所名	グループホーム さん愛		
所在地 (電話番号)	〒822-1406 福岡県田川郡香春町大字香春1660番地1 (電話) 0947-45-1303		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月3日

【情報提供票より】 (平成21年9月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.2 人	

## (2) 建物概要

建物形態	単独	築 4年
建物構造	木造 平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82歳	最低	71 歳	最高	90 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	一本松すずかけ病院 ・中山医院 ・有吉歯科 ・すみれ歯科クリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青春の門に代表される香春岳を展望できる田園地帯の一角に、グループホームさん愛がある。利用者全員が一度に入れる足湯、グランドゴルフ場、サツマイモの収穫中の菜園を眺めて玄関に入ると、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、利用者と職員の歌声や笑い声が聞こえてくる。「よりあい、ふれあい、たすけあい」のさん愛精神を柱に、地域で利用者が安心して暮らせるよう、職員は一丸となって取り組んでいる。往診、訪問看護、訪問歯科など充実した医療連携と生活リハビリで健康管理は万全の体制である。町内会に加入し、神幸祭、清掃活動など積極的に参加し、ホーム主催の夏祭り、グランドゴルフ大会の案内を地域住民に出して参加を募り、また、足湯を地域に開放するなど、地域密着型グループホームとして日々努力をし、地域や利用者家族からも信頼が厚いグループホームさん愛である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点は4件であったが、管理者、職員が1年間改善に向けて努力した結果、「運営推進会議を活かした取り組み」「運営に関する家族等意見の反映」「同業者との交流を通じた向上」の3件が改善されている。「市町村との連携」「人権教育・啓発活動」が今後の課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員で話し合い、管理者がまとめる形で作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族代表、民生委員、児童委員、町議会議員、区長、公民館長、ホーム職員が参加し、ホームの現状報告、行事案内、話し合いが行われ、そこで出された意見は職員間で共有し改善に繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、要望、相談は、運営推進会議時や、家族の来訪時に聴き取るように努め、出された意見などについては、すぐに職員間で話し合い改善に向けて検討し毎日のケアに反映している。また、定期的に家族会を開き、家族とホームとの信頼関係と家族同士の繋がりを深めるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の一員として神幸祭、清掃活動など積極的に参加している。また、ホームの夏祭りやグランドゴルフ大会に地域の方を招待したり、田川地区の民生委員の見学の受け入れなど地域の人々との交流に努めている。ホームの広い足湯は絶好の交流の場となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で多くの方々と交流することにより自分らしく生き生きと過ごせるよう支援する」ことを理念の一つに掲げ、グループホームさん愛の名前の由来である、「よりあい、ふれあい、たすけあい」の精神のもと、日々取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	来訪者の目に付く場所に理念を掲示するとともに、毎日朝礼で理念の唱和を行い、常に理念を共有し、意識付けをして、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、神幸祭や納骨堂の掃除等、地域活動に積極的に参加している。また、ホームの夏祭りやグランドゴルフ大会に地域の老人会の方を招待したり、田川地区の民生委員の見学の受け入れ等、地元の人々との交流に努めている。ホームの足湯は絶好の交流の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、外部評価の意義を理解し評価結果を回覧し、一人ひとりが目標を設定し改善に向けて工夫をしている。今回の自己評価は、職員全員で話し合い管理者がまとめる形で作成した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、家族、民生委員、児童委員、町議会議員、区長、公民館長、ホーム職員が参加し、ホームの現状報告、行事事内や話し合いが行われ、そこで出された意見は職員間で共有し改善に繋がっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の窓口には、積極的に出向き、運営推進会議へ出席して頂けるよう働きかけている。	○	市町村や地域包括支援センターとの連携を深めると共に、長年の介護の知識、経験を活かした介護相談会などの相談事業や、市町村職員の新人研修の受け入れ、市町村と協働して行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は、成年後見制度の利用者はいないが、職員はいつでも利用者や家族に説明が出来る様、パンフレット、説明書を用意し、勉強会を行い、理解を深めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月に1度、利用者の暮らしぶりの報告、行事予定、介護ニュースを交えた「さん愛新聞」を発行している。金銭管理の報告などは家族の来訪時に報告している。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1年に2～3回、家族会を開き、利用者のケア記録を閲覧して質問を受けたり、要望を聴いたりして家族との信頼関係を深め、サービスの質の向上に繋げている。</p>		<p>家族会は、家族だけで、自由に意見を出せるような仕組みを工夫することが望まれる。</p>
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、担当制で、利用者や職員は馴染みの関係である。担当制とは別に2～3ヶ月に1回、A・Bユニット間の職員の交替を行い、全員で横繋がりの情報交換をし、馴染みの関係であり、異動や離職があった場合もダメージは少ない。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢を理由に制限することはない。職員が生き生きと働けるよう、更衣室、ロッカーなど、職場環境を整えている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>管理者は、利用者一人ひとりの人権を尊重するため、ミーティング時に話をし、職員に意識付けをしている。</p>	○	<p>運営推進会議の中で、人権に関する研修を行うなど、啓発活動にも繋がる取り組みを工夫することが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設長は、職員の段階に応じて、外部研修を受ける機会を設け、積極的に参加を促し、職員の質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟し、他事業所と交流、情報交換をしている。		職員間の相互訪問、勉強会など、さらにサービスの質を向上させる取り組みが望まれる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、見学、体験入居を通じて、利用者、職員との馴染みの関係を作り、利用者、家族が納得し、安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から多くのことを学びながら、家族の一員として共に暮らし支え合い喜び合う関係が出来ている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけ、見守りの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通の困難な利用者は、生活歴から読み取ったり、家族から情報を得るなどし対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族の思いや意見を聴き、また、協力機関の医師、看護師の意見を聴きながら、担当者会議で介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しを行っている。また、状況の変化に応じて、本人、家族、医師、看護師、職員で相談し、その都度、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回の内科医の往診、週1回の歯科医の往診と訪問看護に支えられた医療面の充実に加え、地域との交流の場となっている。足湯とグランドゴルフの出来る広場でのグランドゴルフ大会など、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、提携医の定期的な往診、訪問歯科、訪問看護も24時間対応であることから、安心して適切な医療を受けられる体制が整っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、本人や家族の意向を伺い、主治医とも連携をとりながら対応している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応など、利用者一人ひとりの自尊心を傷けないよう介助の徹底がなされている。		個人ファイルは、利用者の家族がすぐ手に取り閲覧できるように、居間に置いている。利用者の個人名などが見えないよう工夫することが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮し、一人ひとりのペースを大切に柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びや献立決めを利用者と一緒に行い、配膳、下膳、皿洗いなどは職員と共に行っている。また、食事はホームの庭で採れたサツマイモ、カボチャなどをふんだんに使った野菜中心で栄養バランスに配慮した献立である。食後は、笑い声や歌声も出る穏やかな食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望があればいつでも入浴できる体制を整えている。入浴を拒む利用者に対しては、辛抱強く声かけを行っている。入浴日以外でも足湯の日を設け、利用者の大きな楽しみになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事には、音楽レクや大正琴、畑仕事、グランドゴルフなど、一人ひとりの興味や力に合わせた楽しみごと、気晴らしの支援をしている。また、掃除、洗濯物干しやたたみなどの役割を持っていただき、張り合いのある毎日を過ごせるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	田園風景や香春岳を眺めながらの日々の散歩、畑仕事、花の水やりなど、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。また、外出を好まない利用者に対しても、広いウッドデッキで過ごし、足湯を利用したりして、屋内に閉じ込められずに外気に触れられるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。職員は利用者、一人ひとりの癖や傾向を把握し見守り対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、1年に2回、消防、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行っている。非常食や備蓄の準備も万全である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量、水分摂取量のチェック表に記録し、状態を把握し細く対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの敷地に入ると、広場と足湯、菜園ではサツマイモの収穫が行われていた。玄関前には季節の花が植えられ、来訪者を温かく迎えてくれる。居間から続く広いウッドデッキからは、香春岳が望め、ホームの犬もんびりと寝そべっていて、居心地のよい共用空間となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、一人ひとり担当の職員の写真が飾られている。また、部屋の中には、馴染みのタンスや椅子、仏壇などを持ち込み、居心地よく落ち着いて暮らせるよう、工夫している。		